

朝のこない夜はない

山首 鈴木正修



ぎようじゆう
行住坐臥が

だいもく
お題目を唱え
とな

とく
徳の貯金を
ちよきん

しましよう

お題目の功德だいもくくどく

心の持ちようこころもちよう

昔むかしから「心配しんぱいする心こころで信心しんじんせよ」と言いわれ
てきました。〳〵心配しんぱいしている時間じかんがあれば、
その分ぶんお題目だいもくを唱となえたり、写経しゃきやうや奉仕ほうしをして
功德くどくを積つみなさい〳〵と教おしえられているのです。
心配しんぱいをし続つづけても何なにもいいことはありません
ん。かえって心配事しんぱいごとを大おほきくしてしまうだけ
です。

コップ一杯いっぱいのビール

野球やきゅうでブルペンエースと言いわれる人ひとがいま
す。練習場れんしやうじやう（ブルペン）では調子ちやうしがいいけれ

ど、本番ほんばんではその調子ちやうしの出だせない人ひとです。そ
んな人ひとはよく「度胸どきやうがない」などと言いわれま
すが、よいな心配しんぱいをしてしまうのだと思おもい
ます。

昔むかし、阪急ブレーブス（今のオリックス・ブ
ルーウエーブ）に今井雄太郎いまいゆうたろうという投手とうしゅがい
ました。今井投手いまいとうしゅは〳〵ブルペンでは調子ちやうしがい
いのに本番ほんばんでは駄目だめ〳〵という典型的なブルペ
ンエースでした。そこで当時とうじの上田監督うえだかんとくが
「お前は酒さけを飲のむと氣きが大おほきくなるから、一
杯飲ばいんで投なげてみる」と言いって、實際じつさいにビー
ルをコップ一杯飲ばいませました。すると絶好調ぜつこうちやう

になり、なんとある試合では、完全試合まで達成してしまいました。

普段お酒の強い人が、コップ一杯のビールでそんなに変わるだろうかと思いますが、それが変わるのです。酔うというのではなく、気持ちが変わるのです。よけいなことを考えなくなるのです。

結婚式やいろいろな会合で、始まる時は緊張していても「乾杯」と一杯飲み始めると急に場が和みます。これと同じだと思います。

莫妄想

中国・唐の時代、禅僧の無業禅師は何を尋ねられても「莫妄想」とだけ答えたと言われています。「莫」というのは「なかれ」とい

う意味です。「妄想」とは「余計な考え」です。つまり「余計なことを考えるな」ということです。

日本でこの「莫妄想」が有名になったのは鎌倉時代の「元寇」の時です。蒙古の襲来に際し、時の執権・北条時宗が、師であった無学祖元に「私は子どもの頃から臆病者だと言われてきました。この国難に対してその臆病が出たら大変です。立派に武士として戦いたいと思います。臆病が出ないようにするにはどうしたらいいでしょうか」と尋ねると師は一言、「莫妄想」と言いました。立派に、などというようなことは考えず、とにかく日本を救うために戦えばよい」ということでした。そして、北条時宗は二度に及んだ蒙古の

襲来に打ち勝ったのです。もちろんその背景に、日蓮聖人の祈りがあつたことは言うまでもありません。

守護を得る

日蓮聖人は常々国家の行末を案じておられました。杉山先生も御法話を見ると、よく国家について語っておられます。

儒教の經典の一つ『大学』に「修身・齐家・治国・平天下」という言葉があります。

「世界平和の基はまず個々の国を治めること。国を治めるにはその中の家庭を整えなければならぬ。家庭を整えるためには、それを構成する個人がその身を修めなければならない」ということですが、杉山先生は三徳を実行し、

身を修め、家を整え、国を治めることを教え、下さしました。また、お題目を唱え、三徳を実行することによって諸天善神の守護を得ることが出来る」と言われています。

諸天善神の守護がなければ何事も上手くはいきません。例えば病氣になった時、病院に行つて薬を飲んだら治つた。お医者さんに診てもらつたら良くなつた」と単純に思いがちですが、そうではありません。これもやはり功徳の働きであり、諸天善神の守護です。

諸天の守護を得るために杉山先生はまずその根本として、「精を出して働きましょう。段々世の中が複雑になつてくるにしたがつて、真面目さがなくなり、怠け者が増えてきます。今の人間は、働くことに対して苦痛であるが

如く考^{かんが}える者^{もの}さえあります。お互^{たが}いの仕事^{しごと}に興味^{しゆみ}をもつて、身^みを惜^おしまし^{はら}まず働^{はたら}きましよう」と言^いわれています。

仕事^{しごと}を趣味^{しゆみ}のよう^{でき}に出来^よればとても良いことだと思^{おも}います。

また「健康^{けんこう}を害^{がい}しないようにしまし^{せつしゆ}よう。暴飲^{ぼういん}暴食^{ぼうしよく}を慎^{つし}み、飲酒^{いんしゆ}に当^あたりても節酒^{せつしゆ}して、乱^{らん}に及^{およ}ばざるよう心掛^{こころが}けましよう。次^{つぎ}に早寝^{はやね}早起^{はやお}きをしまし^いよう」と言^いわれています。健康^{けんこう}をたもつというこ^{だい}とはいろ^いろな意味^{いみ}で大事^{だいじ}なこ^{こと}です。

三番^{さんばん}目は「祖先^{そせん}の恩^{おん}を忘れぬよう^{わす}にしまし^{われわれ}よう。我々^{われわれ}は祖先^{そせん}の分身^{ぶんしん}であります。我々^{われわれ}が

斯^かくして暮^くらすについては、すべてこれ、祖先^{そせん}の苦心^{くしん}の賜物^{たまもの}なることを忘れ^{わす}てはなりません。常^{つね}に祖先^{そせん}のため、一心^{いっしん}に妙法蓮華經^{みょうほうれんげきやう}を唱^{とな}えましよう」と言^いわれています。

そして「よく世間^{せけん}では死^し去^きした人々^{ひとびと}が草場^{くさば}の陰^{かげ}から守^{まも}つてくださると言^いいますが、草場^{くさば}の陰^{かげ}には何^{なに}がいまし^{むし}よう。虫^{むし}や、蛇^{へび}や、蛙^{かえる}でしよう。この境涯^{きやうがい}にあつて、どうして守護^{しゆご}が出来^{でき}ましよう」と言^いわれています。これは「成仏^{じやうぶつ}していない祖先^{そせん}の供養^{くやう}をしまし^いよう」というこ^{こと}です。

杉山先生^{すぎやませんせい}の逸話^{いつわ}の一つにこんなお話^{はなし}があります。

東京^{とうきやう}にお住^すまいの陸軍少将^{りくぐんしょうじやう}に交通事故^{こうつうじこ}で亡^な

くなつた奥さまの追善供養を頼まれた時、少将の家の仏壇の前で手を合わせてお題目を唱えておられると、なぜか杉山先生の目から涙が溢れてきました。少将が「先生、どうなされましたか」と尋ねると「閣下、あなたの奥さまの靈魂は救われておりません。餓鬼道へ堕ちていらつしやいます。御位牌だけはこんな立派な仏壇に納められながら、魂は餓鬼道で苦しんでいらつしやるのかと思いますと、お気の毒でつい悲しくなりました」と言われたのです。

そう言われて少将は「家内の靈魂が浮かばれていないとおつしやるのですか。そんなはずはありません。毎年、命日には丁重に追善法要を営んでおりますから」と言いましたが、

杉山先生が「なるほど法要はなさつたおつもりでしようが、正しい方法で供養をしませんと功德が故人の元に届かないのです。あなたが回向されたおつもりの供養は奥さまの靈に少しも届いておりません。そのためあなたの奥さまの魂は今、一匹の蛙となつてこの屋敷の中に住んでおります」と言われると、本当に一匹の蛙が縁の下から飛び出して来ました。季節は冬です。蛙が出てくる時期でもないのによけいに皆びつくりしてしまいました。

少将も驚いて「家内の魂があの蛙になつていと言われるのですか」と聞くと「そうですよ」と答えられました。そこで「どうしたら妻を救うことが出来ますか」と杉山先生に尋ねました。すると「閣下、法華経の書を揮

毫なさることです。それが今あなたの出来る最も手近な功德を積む手段です。書を揮毫して法華經の信者さんに施して下さい。それは大変大きな功德ですから、その功德で必ず奥さまの靈を救うことが出来ます」と言われました。

少将はこの後、救済会の賛助員となり、書を揮毫して奥さまの靈魂を救われたということです。

お題目の功德

杉山先生はこんなことも言われています。

「守護をして頂くのは諸天善神ですが、我々はぼーっとしていると魔神に囲まれてしまつて、健康を害することも喜んでしてしまいま

す。そうならないために諸天善神に守護して頂ける行ないをしなければなりません。慈悲深く、何事も至誠を持って臨み、『自分は大人である。無理を言う者は子どもである。氣の毒なことだ』と思つて、決して腹を立てないようにします。すなわち堪忍をして、行住坐臥、道を歩む時も仕事をする時も南無妙法蓮華經と唱えるのです。その功德によつて漸次、魔神を遠ざけることを得て、諸天善神の守護を受けることが出来ます」

施しと儉約

杉山先生は驚くほど施しをされましたが、儉約も徹底して行なわれました。

当時、杉山先生はプロの料理人を連れて講

演に出かけられ、講演が終わると来て下さった人々に料理を振る舞われましたが、ご自分はその場では一切食べられなかったそうです。皆さんが残した物を食べられたのです。残飯を洗面器に入れて風呂敷に包み、帰りの電車の中で食べられたそうです。それぐらい徹底して節約をされていました。しかし、施しをされる時は全く物を惜しまずされました。

日本航空の経営を建て直された、現代の経営の神様と言われる稲盛和夫さんは、いろいろな方面に何千億円も寄付をされていますが、生活はとても質素です。稲盛さんのランチは好きなビッグマックとコーラが多く、吉野家の牛丼や、崎陽軒の焼売弁当も大好物だそうです。御本人によると、五百三十円の豚玉の

お好み焼きを食べて「おいしいなあ。幸せやなあ」と手を合わせておられるそうです。

偉い人は共通しているな」と感ずるところです。

功徳の貯金

杉山先生は「お題目の貯金」ということをよく言われています。

救済会の本部に若者が大勢泊まった時、夜中の三時頃にお題目を唱える大きな声が聞こえてきました。どこから聞こえてくるのかと声を辿って行くと、杉山先生がいらつしやいました。「先生、ご修行は大変ですね」と言うのと「これはお題目の貯金をしているのです。信者さんの罪障を消滅させる時には、何万と

いうお題目が必要になることがあります。ですから昼でも夜でも根気よくお題目を唱えて功德を蓄積しておかないと、肝心な時に間に合わないのです」と言われたのです。時には村上先生とご一緒に、二日も三日もずっとお題目を唱え続けられたということです。そして「お題目の蓄積を怠ると天から催促され叱られるのです。怠けているとカチンカチンと諸天に頭を叩かれ、かなり痛いですよ」というようなことも言われています。

『如説修行 功德甚多』と经文にあります、
「三徳を実行し、お題目を唱えて功德を積ん

でゆくと、諸天善神の守護を受けることが出来、悟りが良くなり、咄嗟の災難も逃れることが出来ます。大難が小難、小難は無難となるのです。自然と早起きも出来、体も丈夫になり、だんだんよく働けるようになるのです。物を買うにも安く買え、売るにも買い手の要り用な所に持つていけるようになるので、高くも売れるし、またよく売れます。その他、外出した時、雨にあつても帰宅するまで雨を降りやませることも出来ます」と杉山先生は断言しておられます。

すべては徳次第ということです。